

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立盲学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ、Ⅴ 】
2 実施対象者	京都市立旭丘中学校生徒会役員 12名 本校中学部・高等部普通科球技部部員等 6名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (特別活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	参加者が視覚に障害のある生徒と視覚障害者スポーツを通して交流することで、視覚障害について理解を深め、共にスポーツを楽しむことを楽しむ。
5 取組内容	(実践内容) <平成29年11月28日(火)> 京都市立旭丘中学校生徒への視覚障害理解教育とサウンドテーブルテニスのルール理解と実技指導 ○視覚障害について ・説明(見えない、見えにくいについて) ・アイマスクを付けての体験(転がしたボールを打ち返す。サーブを出す。) ○通常の卓球台での卓球体験 ・通常の卓球台で卓球をし、サウンドテーブルテニスとの違いを実感する。 ○サウンドテーブルテニスの実技指導 ・サーブ、レシーブ、ルール説明 ・ゲーム体験(4チームに分かれて)



	<平成 29 年 12 月 13 日(水)> 京都市立旭丘中学校生徒とサウンドテーブルテニスを通して本校生徒との交流 ・アイマスクを付けての試合と付けていないときの試合を体験する。 ・ゲーム(4つの卓球台にわかれて、旭丘中学校の生徒と試合をする。)    
6 主な成果	(成果) ・「アイマスクをすると自分がどちらを向いているのかさえ分からなくなったが、声をかけてもらいうれしかった。」という感想があったが、見えなくても視覚以外の聴覚や触覚等を使っていろいろな動きができることにも気づく様子が見られた。 ・「アイマスクを付けて音だけを頼りにピンポイントでピンポン玉を打ち返すのは難しいと感じました。」という感想もあり、競技をとおして見えない状態の理解を深めるものになった。 ・本校生徒の交流は1回だけであったが、サウンドテーブルテニスのゲームを通して「楽しかった」「またしたい」等の声がたくさんあり、視覚障害者スポーツの楽しさや理解につながった。また、盲学校生徒との交流も深められた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	(実践上の工夫点、留意点等) ・アイマスクを付けてボールを転がしてサーブやレシーブの体験をすることによって、見えない状態の理解を深めやすくした。 ・1回目にサウンドテーブルテニスの基本的な動きやルール、2回目に本校生徒との練習やゲームに取り組み、サウンドテーブルテニスでの交流をしやすくした。
8 主な課題等	・今回中学部生徒が行事の関係で参加できなかったもので、事前調整を確実にし、学校行事の位置づけとして実施する方向が必要である。 ・高等部の球技部のみの参加だけでなく、いろいろな形で本校生徒の幅広い参加を検討していくことも課題である。
9 来年度以降の実施予定	・来年度以降も近隣中学生と視覚障害者スポーツ(フロアバレーボールやサウンドテーブルテニス)を通して本校生徒と交流を続けていく予定。 ・今後さらにこのような取り組みを継続させ、視覚障害者の理解やスポーツを通しての共生社会を推し進めていきたい。